

平成18年度 事業経過報告書

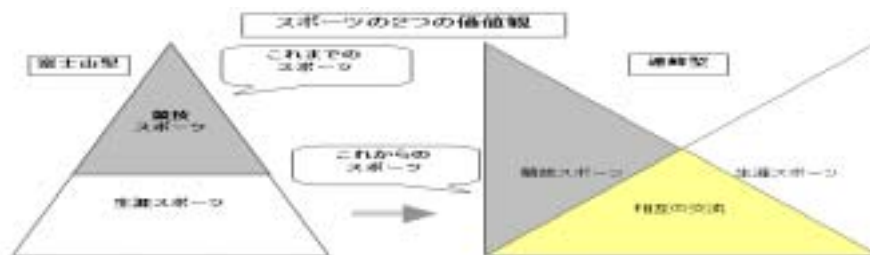
(案)

自 平成18年4月1日
至 平成19年3月31日

東京都中央区築地2丁目11番24号
(財)日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)

平成18年度事業経過報告

平成18年度事業計画は『競技スポーツ』『生涯スポーツ』両方の満足度を向上し、会員を増やすこと、年少者の普及と育成を目標とした。また、国際関係においてはアジア地域の活性化に協力し、日本のモーターサイクルスポーツの発展に繋がる方向の施策検討を重点項目とした。



具体的施策としては

ロードレースの年少者対策として『MFJロードレースアカデミー』をツインリンクもてぎにて育成事業の第一歩として開校した。

2年目を迎える『スーパーモタード』『エンデュロ』の普及振興を行い、競技会の中で競技スポーツとして取り組む層と生涯スポーツとして取り組む層の両方の推進を図った。

アジア・ロードレース・オブ・ネーションズの企画に協力し代表選手を派遣する等国際交流を図った。

GP-MONOを全日本選手権正式種目として開催した。

社会的認知向上の為、CS放送/地上波放映の促進、WEBサイトの充実を図った。

競技ライセンス発行数については、ライダーライセンスは維持できたが、競技役員とピットクルーの減少が大きく全体的には99%と減少した。エンジョイ会員は順調で前年度を上回ることが出来た。

全体的な高齢化傾向や地方選手権参加者の減少傾向は変わらず、次代を担う年少者への普及活動と現会員の満足度向上、社会的認知の向上などに加えて、競技役員やピットクルーなど競技会を支える人材への対策の検討が急務である。

・ライセンス会員の登録状況

平成 18 年度の MFJ ライセンス会員の登録状況は下記のとおりであった。

1) ライセンス会員数

全体のライセンス取得者数は 21,713 名 (昨年 21,858 名) で前年対比 99%、ライセンス発行枚数も 31,435 枚 (昨年 31,711 枚) で 99%であった。

ライダーライセンスは 14,836 枚 (昨年 14,764 枚) で前年を僅かに上回ったが、ピットクルーが 10,900 枚 (昨年 11,035 枚・前年比 99%) 競技役員が 5,699 枚 (昨年 5,912 枚・前年比 96%) と減少したことが影響し、全体の減少となった。

1991 年には 20 代が約 60%、30 歳以上が約 20%であったが、2006 年には 20 代 15%、30 歳以上は 75%と高齢化している。

(1) 各種目の傾向

ロードレース 9,200 名 (昨年 9,188 名) 前年対比 100%

前年比 100%を維持出来たが、相変わらず年少者は少なく、競技性の高い選手権競技の参加が減少している。

- ・ ジュニアは 41 名と全体数は少ないものの前年比 186%と増加している。
- ・ フレッシュマンは鈴鹿ミニモト 4 耐の活性等の影響で 2,878 名と前年比 109%
- ・ 国内は 5,360 名で前年比 95%と減少した。地方選手権の衰退と連動している。
- ・ 国際は 921 名で前年対比 101%と微増した。

モトクロス 2,865 名 (昨年 2,930 名) 前年対比 98%

前年比 98%と減少した。年少者は増加したが、高齢者の脱落が大きい。

- ・ PC は 166 名で前年比 113%、ジュニアも 532 名で前年比 107%と年少者が増加。
- ・ NB は 977 名で前年比 96%、NA は 398 名で 88%と減少している。高齢化の影響か。
- ・ 国際 B は 604 名で前年比 96%、国際 A は 188 名で 98%と減少した。

トライアル 1,756 名 (昨年 1,734 名) 前年対比 101%

前年比 101%と安定しているが、年少者の参入が極端に少ない。

- ・ ジュニアは 17 名と少ないものの前年比 142%と増加。
- ・ NB は 757 名で前年比 99%、NA は 450 名で 102%とほぼ横ばいであった。
- ・ 国際 B は 407 名で前年比 101%、国際 A は 125 名で 109%と微増した。

スノーモビル 244名(前年259名)前年対比94%

前年比94%と減少、短いシーズンに過密な日程が影響したと推察される。

- ・ ジュニアは13名で前年比93%、B級は129名で前年比86%と減少
- ・ A級は102名で前年比107%と微増

ドラッグレース 87名(前年99名)前年対比88%

前年比88%と減少。大会数と開催施設の減少が影響している。

- ・ B級は43名で前年比83%、A級は44名で94%と減少

ダートトラック 39名(前年33名)前年対比118%

開催施設がツインリンクもてぎ1箇所で開催数も少ないが微増した。

スーパーモタード 545名(前年434名)前年対比126%

2年目を迎え大会数・開催地域も拡大したことから増加した。

- ・ B級は361名で前年比131%と増加
- ・ A級は184名で前年比117%と増加

エンデューロ 100名(前年87名)前年対比115%

全日本クラス2年目を迎え、オンタイム制競技の認知の向上もあり増加した。

2) エンジョイ会員数

エンジョイ会員は**5,896名**(平成17年10月~平成18年9月)昨年度は4,923名(平成16年10月~平成17年9月)で**120%**と増加した。

・ モーターサイクルスポーツ事業

1) MFJ主催および共催競技会・行事の開催状況

平成17年度中にMFJ主催並びに共催競技会を5大会開催した。

また、日本二輪車協会(NMCA)と共催にて「少年少女モーターサイクルスポーツスクール」を文部科学省・内閣府後援で34回開催し、729組1,458名の参加があった。(05年:37回/919組/1,838名)

2) MFJ 公認・承認競技会(講習会含む)の都道府県別開催状況

都道府県別MFJ公認・承認競技会(講習会含む)の開催数は679大会(2006年1月~12月末日)であった。(05年:660大会)

3) MFJ公認競技会の主たる種目の開催状況は主催者の報告書に基づき集計した結果下記のとおりであった。(観客数は主催者発表数)

(1) ロードレース

世界選手権/特別競技会

- ・ 世界選手権モトGPもてぎ(9月)

観客数**96,400**名(3日間合計)で前年対比**100%**。4メーカーの応援席が定着し、観客動員に貢献している。

- ・ 世界耐久選手権鈴鹿8時間(7月)

観客数**128,500**名(3日間合計)で前年対比**92%**であった。FIMより、FIMカップ・インテュランス・オブ・ネーションズ(国別対抗)の賞典が設けられ、国際色豊かに開催された。国別対抗賞は日本代表チームが獲得した。

- ・ 鈴鹿300km(6月・特別競技会)

8耐前哨戦として開催され8耐国別対抗の日本代表チームが選出された。
観客数**25,000**名(2日間)参加**68**台

- ・ もてぎ7時間耐久(7月・特別競技会)

参加型耐久レースとして定着し、観客数**12,100**名、参加台数**136**台/459名であった。

全日本選手権

当初8戦予定であったが、年初にMine大会が中止となり全7戦で開催、観客数は前年対比**94%**と減少した。前半戦の天候不順と主催者の観客発表数字の適正化傾向が減少の要因。エントリー台数はST600が1大会平均**55**台参加(**80%**)、JSB1000は平均**48**台(**104%**)、GP125は平均**47**台(**109%**)、GP250は平均**28**台(**112%**)、今年から全日本選手権正規種目となったGP-MONOは平均**25**台(**119%**)全体では**101%**とほぼ横ばいであった。ST600は予選落ちの台数が多く、レー

スの先鋭化から格差が広がり減少傾向にあると推察される。

GP125 では優秀な若手が台頭し、10代の選手がランキング1位・2位を占めた。JSB クラスでは伊藤真一選手がチャンピオンとなり、文部科学大臣杯を授与された。

チャレンジカップ選手権・地方競技会

チャレンジカップ選手権は全国3エリアで26大会（昨年25大会）中21大会の開催報告があった。

- ・ 東日本（SUGO/もてぎ/筑波/富士・9大会）総参加台数456台で前年対比78%、ウエスト（鈴鹿/岡山・8大会）総参加台数298台55%、サウス（オートポリス・HSR九州4大会）総参加台数82台96%
- ・ 地方選手権は全国で42大会（昨年50大会）中35大会の開催報告があり、総参加台数3,771台で前年対比84%と減少傾向に歯止めが掛からない。抜本的な見直しが必要である。
- ・ 昨年より開催したST600耐久シリーズはイ-ストウエスト2エリアで開催したが、増加せず、2007年度は休止することとなった。

承認競技会

承認競技会は49大会（昨年48大会）開催され、参加は4,830台/8,277名（昨年4,863台/7,307名）と堅調に推移している。

特に鈴鹿ミニ4時間耐久レース(419台/1,390名)、もてぎDE耐等(379台/1,695名)のミニ耐久が活況を呈した。

(2) モトクロス

世界選手権

MX世界選手権日本GPは5月20日～21日に鈴鹿サーキット SUGOで開催され、観客数23,600名(2日間)、参加台数MX-1が30台（内MFJ12名）MX-2が31台(内MFJ12名)であった。日本と世界の技量差が目立ち、強化対策が必要である。

全日本選手権

全日本選手権は全10戦開催され、観客数は前年対比101%、総参加台数は4,143台で前年対比98%とほぼ横這い。国際B級は前年対比91%

と減少、国際 A 級は 105%、レイスは 104%、併催のチャイルドは 113%と増加した。安全対策としてコースサイドにネットを充実し、観戦エリアの区分が明確になった。

モトクロス全国大会

国内 A 級/B 級の日本一決定戦の位置付けの年に一度の全国選抜大会である同大会を昨年に引き続き中国地区のグリーンパルク弘楽園にて開催し、246 台と多くの参加を集めた。支部対抗団体賞は関東支部が獲得した。

地方競技会

全国で 96 大会(昨年 92 大会)が開催報告があり、総参加台数は 13,583 台、1 大会平均 141 台と前年対比 99%と前年を維持したが、NB・NA はオープンクラスの開催の効果で 2 クラスエントリーが多く参加台数の維持が出来ているが、参加人数はライセンス人口と比例し減少しており、今後年齢別レース等参加しやすい競技を進める必要がある。

(3) トライアル

世界選手権

世界選手権を 6 月 3 日～4 日にツインリンクもてぎにて開催、両日 16,500 名が来場した。(昨年 16,800 名) セクションを観客から見やすい位置に設置し好評であった。参加台数は 46 台でユース・ジュニアクラスの海外の若手の台頭が目立った。

全日本選手権

全日本選手権は全 8 戦開催され、観客数は前年対比 92%、エントリー総台数は 931 台、平均 116 台と前年対比 107%と増加し、堅調に推移しているが、若手の参入が少なく将来減少が懸念され、対策が急務である。

地方選手権

全国で 103 大会(昨年 107 大会)の開催報告があり、総参加台数は 5,678 台で 1 大会平均台数 55 台、前年対比 102%と微増。比較的安定しているが、新規参加者は少なく全体的に高齢化顕著。

(4) スノーモビル

全日本選手権は全 5 戦が開催された。参加台数は合計 730 台で前年対比 106%と増加したが過密スケジュールの解消やクラスの統廃合が必要である。

(5) ドラッグレース

全日本選手権は全 3 戦中 2 戦が開催され（鈴鹿大会が雨天中止）、観客数は前年対比 107%。総エントリー台数は 107 台で 1 大会平均参加台数が 54 台、前年対比 115%であった。

(6) スーパーモタード

2 年目を迎えたスーパーモタードは堅調に推移したが、MOTO1 オールスターズにおける技量格差・クラス区分の問題や、各地域エリアの参加が伸びなどの問題も表面化。

- ・ MOTO1 オールスターズ（全国転戦のシリーズ）が年間 7 戦開催され、総参加台数 647 台 / 1 大会平均 92 台の参加を得た。オールスターズ対象クラスのみでは 444 台 / 平均 63 台
- ・ MOTO1 エリア（地方選手権）を下記 6 エリアで開催。

エリア	開催場所	大会数	報告数	総台数		エリア内訳	
				台数	平均	台数	平均
東北	SUGO/エビス	5	4	238	60	56	14
関東	伊那/TRM	5	5	504	101	327	65
近畿	琵琶湖/猪名川/名阪	5	5	213	43	116	23
中国	岡山/カカ弘楽園	5	5	209	42	106	21
九州	セキヤ/HSR	5	5	195	39	110	22
沖縄	ゆかり牧場	8	7	85	12	85	12
		33	31	1444	47	800	25

(7) エンデューロ

全日本クラスを含む大会を 3 戦設け（SUGO/熊本/北海道）合計 268 台 / 1 大会平均 89 台（内全日本クラスは平均 28 台(昨年 15 台)参加）の参加であった。ISDE に繋がる「オンタイムルール」の理解が進んだ。また、同クラスのランキングにより ISDE 代表選手の選考を行った。

(8) キッズ&レディスパレード

年少者と女性の普及対策として、全日本ロードレース選手権全戦にてパレードを実施し、下記参加を得た。

開催日	場所	キッズ	レディス
4月2日	もてぎ	16	4
4月16日	鈴鹿	28	
5月14日	筑波	14	7
5月28日	オートボリス	27	
8月27日	SUGO	17	
10月15日	岡山	28	
11月5日	鈴鹿	23	
合計		153	11

4) 代表選手派遣事業

(1) ETCO Cup Nations (国別対抗世界選手権)

開催日：9月23日/24日 開催地：英国/ウインチェスター/マリーヘイサーキット

参加国：31カ国 観客数：85,000名

日本代表チーム(熱田孝高/成田亮/小島庸平) 結果：12位

(2) Trial de Nations (国別対抗世界選手権)

開催日：9月30日/10月1日 開催地：フランス・モンフォート

参加国：女性13カ国 テナショナル(WC=9カ国、IT=13カ国)

結果：女性チーム(萩原真理子/高橋摩耶/西村亜弥) 4位

男性チーム(藤波貴久/野崎史高/小川毅士) 3位

(3) Asian Road Race Cup Nations

アジア地域の普及振興を目的に国別対抗のロードレースの初めての開催に協力し、日本代表チームを派遣した。

開催日：7月7日 開催地：タイ王国・ナコンチャイサーキット

参加国：10ヶ国 参加29名 開催クラス：アンダーホン125cc

結果：日本代表チーム(菊池寛幸/小室旭/安達聖也) 4位

(4) ISDE(国際6日間エンデューロ)

全日本クラスのランキング上位者の中から出場を希望する者6名をトロフィーチーム(代表)として認定した。関連企業の募金活動協力を得た。

開催日：11月14日~19日 開催地：ニュージーランド 結果：15位

トロフィーチーム(鈴木健二・藤原広喜・博田巖・高橋政人・内山裕太郎・池田智泰)

5) 全日本選手権ランキング表彰式典

全日本ランキング表彰式典を平成18年12月16日(土)に東京・永田町の砂防会館にて開催、約400名が出席した。

6) LSOセミナーの実施

モータースポーツライフェリング機構(LSO)のセミナーを4支部にて実施し、61名の競技役員が受講し、レスキュー体制の強化を図った。

	開催日	支部	参加人数
2006年	2月18日	中国	15
	3月11・12日	東北	22
	9月3日	四国	19
	10月21日	北海道	5
2007年	1月21日	中部	49
	4月21日	九州	21

7) インストラクター養成セミナー

ライダー養成にあたる人材育成を目的に、インストラクター資格養成セミナーを実施、モーターサイクルスポーツの専門分野ならびに、大学の講師によるスポーツコーチング、熱中症予防に関する講義を行った。

- ・ 8月8日/9日 東京・日本印刷会館研修室 受講者37名(内新規10名)

8) ロードレースセミナー

2007年競技規則の統一解釈を目的に全国のロードレース施設から競技監督・車検・事務局等主要役員を集めセミナーを開催した。

- ・ 2007年2月13日・14日 会場：鈴鹿サーキット 出席者：85名

9) トライアルミーティング

観客の多い世界選手権会場にて認知向上の為に下記活動を行った。車両は本田技研工業・ヤマハ発動機に協力いただいた。

開催月日：2006年6月4日(日)

開催場所：栃木県・ツインリンクもてぎ

参加：キッズバイクスクール 50組(男児36名・女児14名)

トライアルバイク体験試乗会(ホンダ・ヤマハ)95名(土)・130名(日)

補助金事業

日本小型自動車振興会補助金事業は「国内競技規則書」に補助いただいた。

モーターサイクルスポーツの普及振興

1) 普及強化事業

MFJロードレースアカデミー in Motegi

次代を担う若者を養成することを目的に開校し、4月から12月まで10回、のべ21日間に亘る講習を行った。会場を提供いただいたツインリンクもてぎ初め、多くの関連企業より協賛を得ることができた。今期の受講者は9名と少数であったが、内容の濃い講習を行うことが出来た。

- ・ 名称：「MFJロードレースアカデミー in Motegi」 会場：ツインリンクもてぎ
- ・ 主催：(財)日本モーターサイクルスポーツ協会
- ・ 対象：12歳～15歳 受講者：9名 期間：2006年4月～12月
- ・ 車両：CBR150 NS50 NSR-mini 受講料：30万円
- ・ 目的：年少者にモーターサイクルスポーツを通じて社会性や親子のコミュニケーション、向上心、自立心、規律、助け合いの精神を育み、心身の健全な発達を促す。
- ・ 目標：入校後講習を行いジュニアライセンス取得、卒業時には国内ライセンスを取得し地方選手権出場可能なレベルに育成
- ・ 協賛企業：25社

GP MONO

今年度より、全日本ロードレース選手権正式種目として全6戦開催し、合計147台/1大会平均25台の参加を得た。メーカーのエンジン供給を受けたコンストラクターが完成車の発売を開始したことで、このクラスの普及が進むことが期待される。

3) 広報活動

MFJの広報機関誌である月刊「ライディング」及び別冊MFJ国内競技規則書を年間累計207,150冊(昨年193,932冊)発行。機関誌とホームページの情報内容の仕分けを行い、速報性に限界のある機関誌の回数を減らし年間8回とした。ライセンス会員、特別会員、賛助会員、ネットワークショップ及び報道機関

などに広く配布し、MFJ活動の広報に努めた。

MFJ オフィシャルホームページは本年4月1日より11月末日まで666,390件/月平均83,299件(昨年633,522件/月平均79,190件)のアクセスを得た。

(一般的には1万件以上はアクセスが多いページの基準とされている。)

C S放送ロックオンとリンクし、全日本選手権ロードレースの動画配信を行った。また、同3種目の全日本選手権の結果速報・レポート・写真を掲載し内容充実と速報性の向上を行った。

主にネットワークショップに向けてのイベント情報をFAX通信にて毎月1回(10日発行)配信した。年間12回配信

ライセンス会員募集のために二輪専門雑誌の広告掲載並びに募集パンフレットを作成し、配布した。(9媒体・40回)

ネットワークショップを中心に掲出するポスターカレンダー(支部ごとの地域イベントを中心とした内容)を作成し、広く配布予定。

全日本ロードレース選手権大会のプロモーション活動を行うMFJプロモーション委員会において、シリーズ告知等広報宣伝活動を展開した。

- ・TVはC S放送スポーツ専門チャンネル Gaora にて『ロックオン』全日本ロードレース並びにモトクロス全戦2時間番組を合計35回放映。また地上波で『ロックオン』30分ダイジェスト番組(ロードレースのみ)を関東6局(東京/埼玉/神奈川/千葉/群馬/栃木)を中心に近畿2局(大阪/京都)中部2局(静岡/三重)九州4局(熊本/鹿児島/大分/福岡)全国ローカル14局で80回放映。

- ・専用ホームページ Superbike.jp にて各大会の告知を中心に情報発信した。

- ・紙媒体ではサンケイスポーツにて各大会の告知記事広告を出稿した。

- ・その他、支部と連携しネットワークショップ向けの観戦ガイドブック(2回)の配布や割引企画の実施、来場者向けのサービス活動・ファンクラブの運営等を展開した。

東京/大阪で開催されたモーターサイクルショーにてMFJブースを展開し、競技会の広報宣伝や会員募集に努めた。

- ・第24回大阪モーターサイクルショー

日時：2007年3月23日～25日 場所：インテックス大阪

入場者数：44,548名（3日間合計）

- ・ 第34回東京モーターサイクルショー

日時：2007年3月30日～4月1日 場所：東京ビックサイト

入場者数：91,267名（3日間合計）

．地方組織

1．支部長・事務局長会議

支部との情報共有の為、支部長/事務局長会議を定期的で開催した。

2．ネットワークショップ

ネットワークショップ加盟推進を全国400店舗目標に支部ごとに数値目標を立てて加入活動を行ったが、306店舗（昨年310店）に留まった。

支部	会員数			競技会数			全日本選手権						Nissy	HP	表彰式	大会					
	MCF	インゲイ	計	公認	承認	計	RD	MX	TR	SN	ED	SM				RD	MX	TR	SN	ED	SM
北海道支部	1252	308	1561	35	12	47	0	1	1	3	1	0	10	○	最終戦時	○	2	1	2		
東北支部	2686	738	3424	59	31	90	1	3	1	1	1	1	27	○	最終戦時	○	3	2	2	1	
関東支部	11466	2489	13955	158	32	190	2	1	2	0	0	2	105	○	○		1	2	2	1	
中部支部	5239	761	6000	69	30	99	2	0	1	0	0	0	48	○	○		2	2	2		
近畿支部	5574	776	6350	52	23	75	0	2	1	0	0	1	51	○	○	○	2	3			1
中国支部	2029	536	2565	84	24	108	1	2	1	0	0	1	19	○	○		2	2	2		
四国支部	922	107	1029	25	1	26	0	0	0	0	0	0	11	○				3	2		
九州支部	2267	180	2447	62	12	74	1	1	1	0	1	1	38	○	○		3	1	2		2
合計	31435	5896	37331	544	165	709	7	10	8	4	3	6	309								

．国際交流

世界及びアジアにおけるMFJの役割として人材育成並びにモーターサイクルスポーツ普及に関する提案を行い、国際交流の促進を図った。

- 1) 6月、スーパーバイク規則世界統一検討会議のため、イタリア（ローマ）に事務局員を派遣した。
- 2) 8月、世界ロードレースグランプリ開催のためのFIM査察に立会いとして事務局員を派遣した。
- 3) 9月、アジア地域活性化協議のため、UAM事務局及び中国協会表敬訪問のため、鈴木会長及び事務局員を派遣した。

- 4) 10月、FIMブラジル総会に鈴木会長、杉本ロードレース委員長及び事務局員を派遣した。
- 5) 12月、タイにて開催されるオールジャパンスターズスーパークロスに高橋理事及び事務局員を派遣。
- 6) 2007年1月、中国・海南島にて開催されるUAM総会に事務局員を派遣。
- 7) 2007年1月、FIM車両公認インスペクション立会いとして事務局員を派遣。
- 8) 2007年2月、FIM春季総会(ジュネーブ)に杉本ロードレース委員長及び事務局員を派遣。

・スポーツ傷害基金報告

共済会からスポーツ傷害基金への移行が完了、今年度の運営状況は下記である。

種目	掛金口数	支払い件数	死亡	後遺症
ロードレース	11,465	74	1	2
ミニロード	270	1	0	0
トラックレース	0	0	0	0
ミニバイク	6,022	24	0	0
ストリートバイクゲームス	19	0	0	0
スーパーモーター	1,488	11	0	0
スーパーモーター <small>小排気量</small>	1,688	1	0	0
モトクロス	8,261	83	0	1
ミニモトクロス	4,947	21	0	0
トライアル	9,903	19	0	0
エンデューロ	3,362	23	0	0
ダートトラック	26	0	0	0
スノーモビル	595	4	0	0
スクール	140	2	0	0
海外共済会	52	0	0	0
ピットクルー	10,648	0	0	0
	58,886	263	1	3

・諸会議の開催状況

- 1) 総務関係 () は作業部会
- | | | |
|---------------|-----------------------|----|
| 理事会・評議員会 | 5/23・12/12 | 2回 |
| 運営・財務委員会 | 5/16・9/14・12/5・07-2/9 | 4回 |
| MFJ支部長・事務局長会議 | 12/15 | 1回 |
| スポーツ傷害基金委員会 | 5/17・10/12 | 2回 |
- 2) スポーツ関係
- | | | |
|------------|--------------------------|----|
| 中央審査委員会 | | 0回 |
| 中央スポーツ委員会 | 7/19・11/22 | 2回 |
| プロモーション委員会 | 6/13・10/10・12/21・07-1/25 | 4回 |

技術委員会	4/12・5/24・6/27・8/24・10/5・11/17	6回
ロードレース委員会	6/23・(7/21)・10/30・(11/8)	4回
モトクロス委員会	7/4・11/9	2回
トライアル委員会	6/30・11/7	2回
スノーモビル部会	6/20	1回
ドラッグレース部会	11/16	1回
スーパーモタード部会	10/11	1回
エンデューロ部会	4/25・10/27	2回
スポーツ環境整備委員会準備委員会	6/16	1回
規律裁定委員会	4/20	1回
タイヤ部会	8/4・9/12	2回
FIM 公差検討会議	4/12・6/15・9/5	3回
女性 RD 懇談会	4/22	1回
GP-MONO 検討会議	7/15	1回

以上